

田園環境都市おやまビジョン | 中地区 風土性調査報告会

踏査および文献調査による報告

2024年9月9日

小山市

有限責任事業組合 風景社

本調査における風土の定義

風土とは、
地域の自然に
人間が暮らしと生業を通して
働きかけてかたちづくられる、
人々が生きる環境のことをいいます。

出典: 藺田稔編『神道』弘文堂、1988年、総372頁

アルフレッド・シュッツ、トーマス・ルックマン『生活世界の構造』那須壽監訳、筑摩書房、2015年、総634頁

報告のはじめに

中地区は思川低地に位置し、
ほぼ全域が洪水浸水想定区域に当たります。

出典: 小山市 | 小山市洪水ハザードマップについて <https://x.gd/Y6V5F> (2024-08-24 参照)

簡易社会調査では、
水害への不安を示す回答が、
思川低地中・南部の4地区に共通して上位を。
農業の継続、継承の不安についても同様です。

報告のはじめに

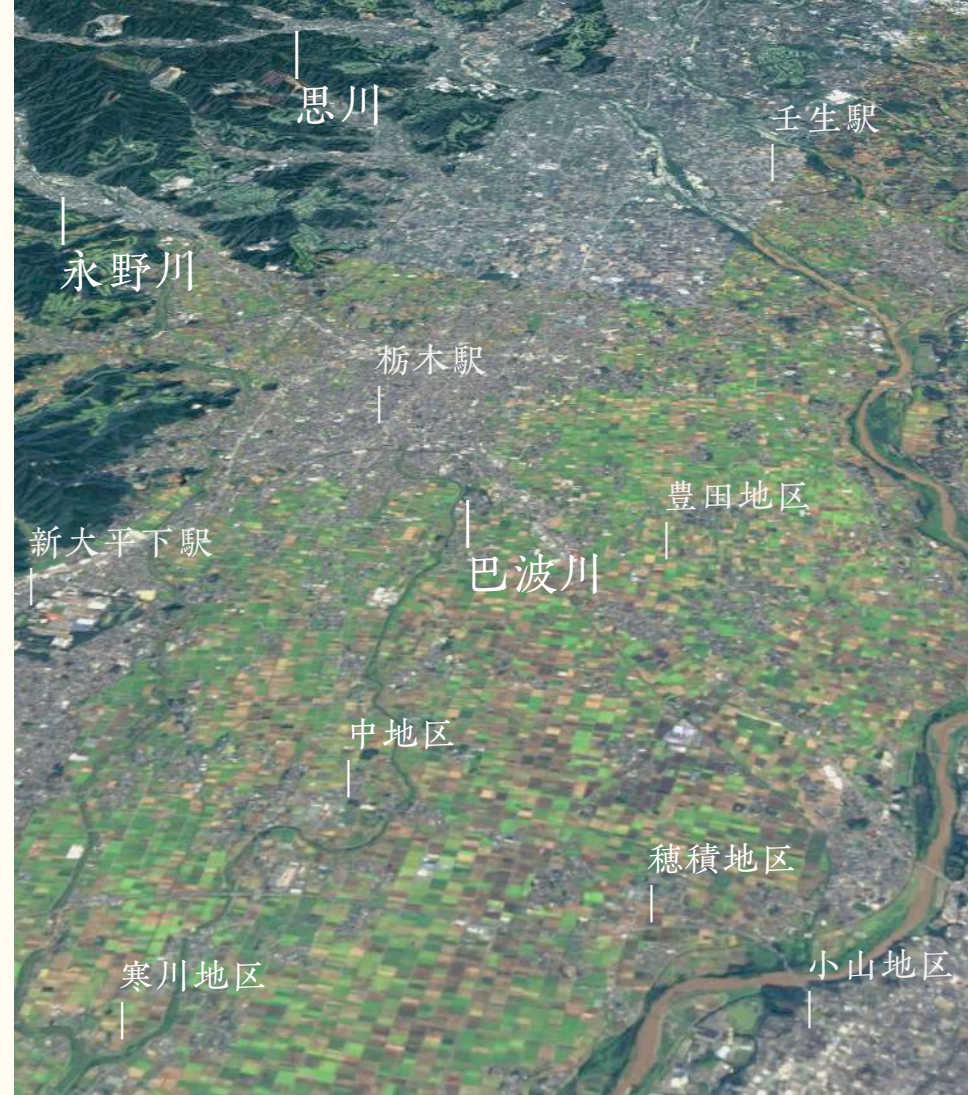
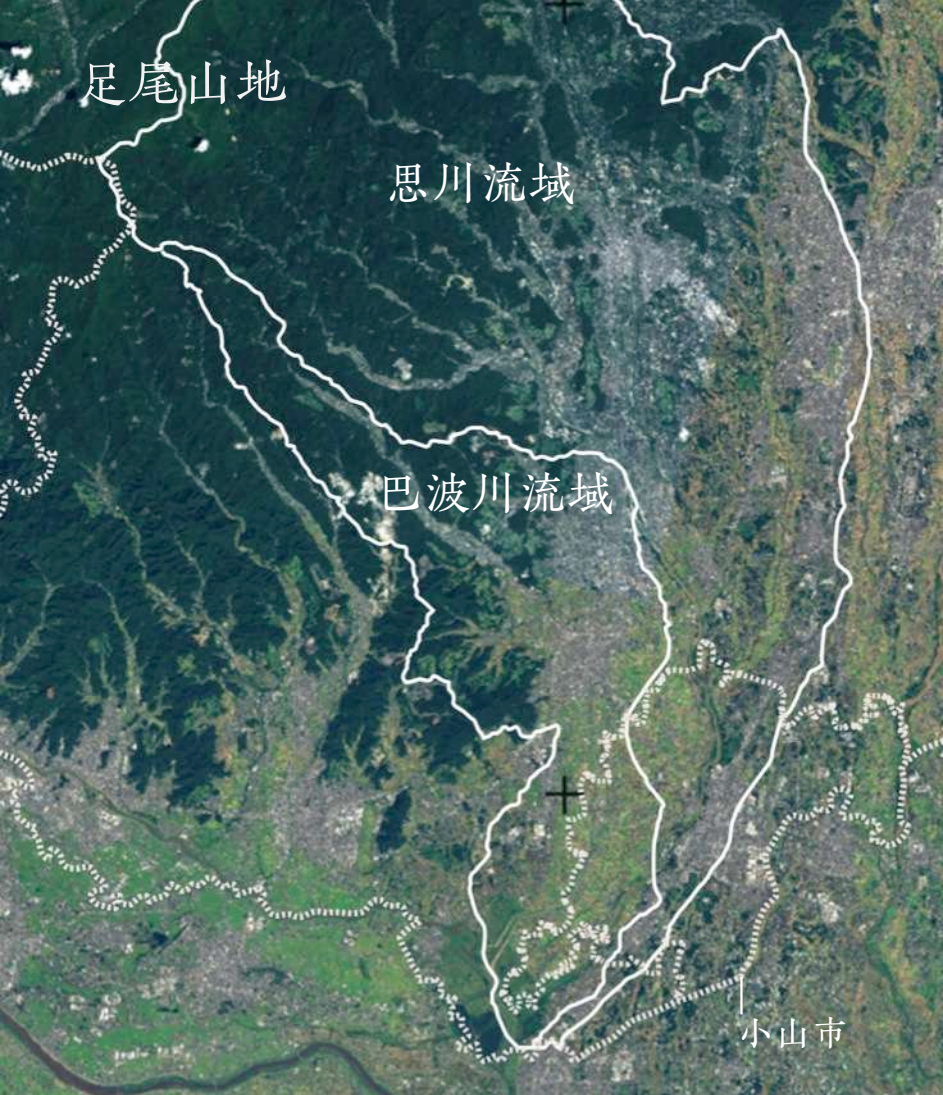
思川低地は、川が氾濫を繰り返してできました。
その中で、縄文時代後期以来、人が自然と
折り合って生きてきた歴史が当地にはあります。

しかし、中地区が位置する巴波川流域では、
上流部で市街化が進み、植林の管理が不足し、
雨水が流出しやすくなり、気温上昇から
雨量は増え、災害の危険度が増しています。



治水地形分類図。出典: 国土地理院 <https://maps.gsi.go.jp> (2024-08-29 参照)

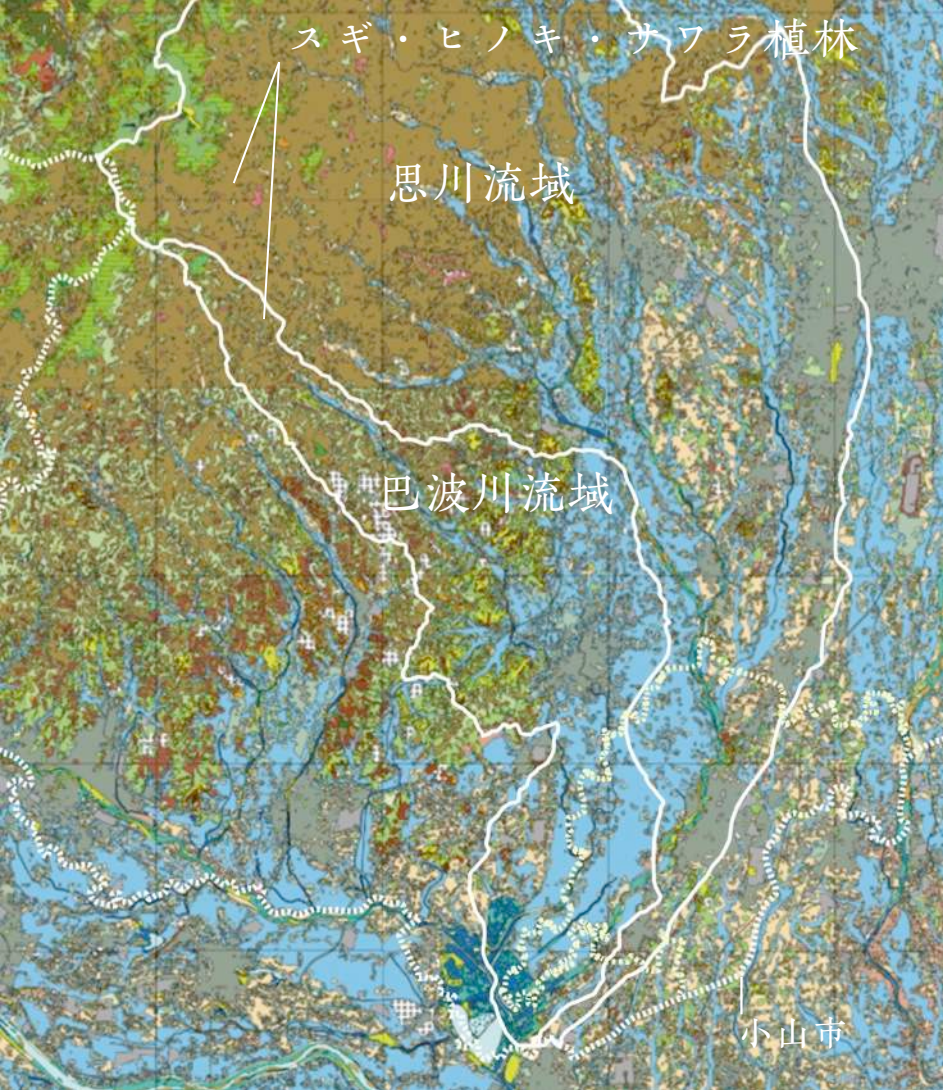
「『上泉』『本沢』(中略)『下泉』『井岡』『河原田』『大川島』『下初田』など、多くの水にまつわる地名が残る」。上図の地形要素も水に関係します。



思川・巴波川流域と地形、小山市および寒川地区の位置の関係 出典: 国土地理院 | 地理院地図 <http://maps.gsi.go.jp/> (廣瀬改変 2024)

思川は「流域の半分が山地で、山地から急に平地に」
巴波川も地形は同様。共に上流域で市街化が進行。

出典: 小山市史編さん専門委員会編『小山市史 通史編Ⅰ自然 原始・古代 中世』小山市、1984年、14-19頁。巴波川流域面積は約218 km²で約22 %が田畑。約19 %が山林、約10 %が宅地。
栃木県「一級河川利根川水系巴波川圏域河川整備計画(第3回変更)」2021年、1、3頁 <https://www.pref.tochigi.lg.jp/h06/town/kasen/kaishu/documents/20210408111748.pdf> (2024-09-03 参照)



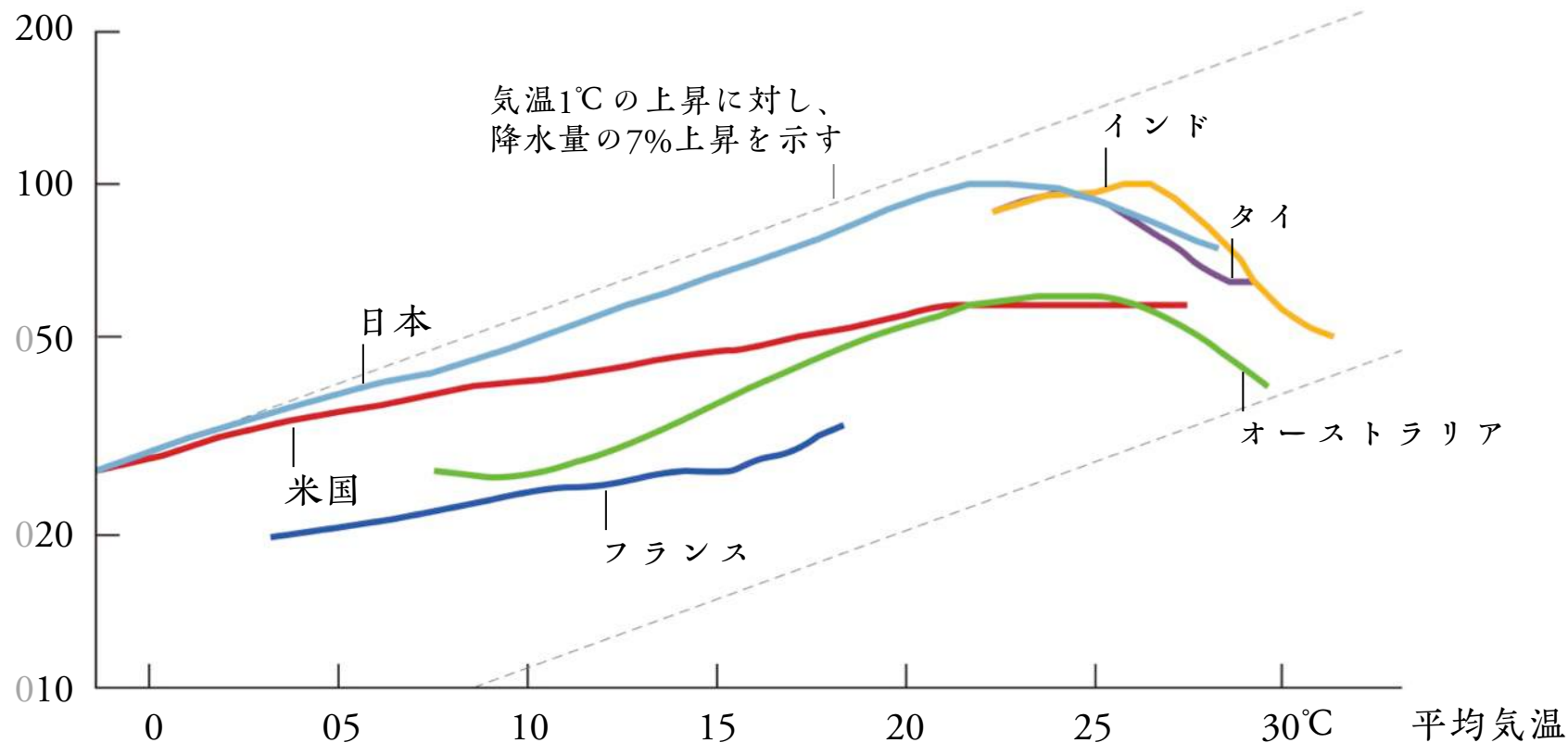
参考 間伐を前提として密植造林を行いながら管理がされていない例 (宮城県)

思川・巴波川流域の植生 出典: 生物多様性センター | 自然環境調査Web-GIS | 植生調査 <http://gis.biodic.go.jp/webgis/> (廣瀬改変 2024)

両川源流域の山林では、広範囲で針葉樹の植林を。
写真のように管理不足であると、治山治水に難が。

日降水量 (mm)

「気温が上昇すると、大気中に含まれる水蒸気量の最大値 (飽和水蒸気圧) が指数関数的に増える。その増え方は、摂氏10度付近で、気温が1度上がるごとに約7%」



上位1%の日降水量とその日の平均気温 (縦軸は対数表示)。(廣瀬改変 2018)

Source: Utsumi, N., S. Seto, S. Kanae, E. Maeda, and T. Oki, 2011: Does higher surface air temperature intensify extreme precipitation?, *Geophys. Res. Lett.*, 38, L16708.

「海に囲まれた日本やオーストラリアでは、気温の高い日ほどほぼこの7%の傾きに沿って強い豪雨が」

宇都宮地方気象台における年平均気温の長期変化傾向は+2.3 (°C/100年)、猛暑日の年間日数は10年当たり1.0日増加

出典: 宇都宮地方気象台・東京管区気象台「栃木県の気候変動 2021」

市街地の非農家 →← 田園部の農業者

食品として購入 (消費者) ←→ 農作物生産・供給 ※直接販売はほぼない

原材料として購入 (加工者) ←→ 〃

販売品として購入 (流通・販売者) ←→ 〃

←→ 自然の恵み (生態系サービス) の仲介

- ・供給サービス (食料のほか非常時の生活用水〈農業用水より〉)
- ・調整サービス (遊水・田んぼダム、地域の気候・熱環境調整)
- ・文化的サービス (祭礼の動機・資材、創作の動機・主題、教育)
- ・生息・生育地サービス (生物多様性〈湿地環境の保持より〉)

税を原資とした
補助事業はあるが、
農業者の自然の恵みの
仲介に対しては不適正

巴波川と亀の子堰。生駒。2024/06/26

不利な条件に立つ低地の農業者が、自然の恵みの
仲介にこれまでどう貢献してきたか振り返ります。

報告のはじめに

当地区の農業者は、水害常襲地で様々な困難を抱えながら農業を続けることにより、市街地の非農家に大きな恵みをもたらしてきています。

参照: 鎌田磨人「グリーンインフラとしての水田とEco-DRR」『農村計画学会誌』37(4)、2019年、358-361頁

こうした農業者の自然の恵みの仲介に対する適正な対価が求められます。

参照: 吉永健治「農村アメニティの需給とインセンティヴ」『農総研季報』(37)、農林水産省農業総合研究所編、1998年、5-21頁

目次:

1 地域の自然について

2 地域の自然への人の働きかけについて

3 地域と人々の心身の結びつき

4 景観から読みとれるその他のこと

地域の自然について



合併以前の旧町村の区分に基づく小山市内の11地区を示す | 出典: 国土地理院 | 地理院地図 <http://maps.gsi.go.jp/> (廣瀬改変 2024)

中地区は、小山市西部に位置し、



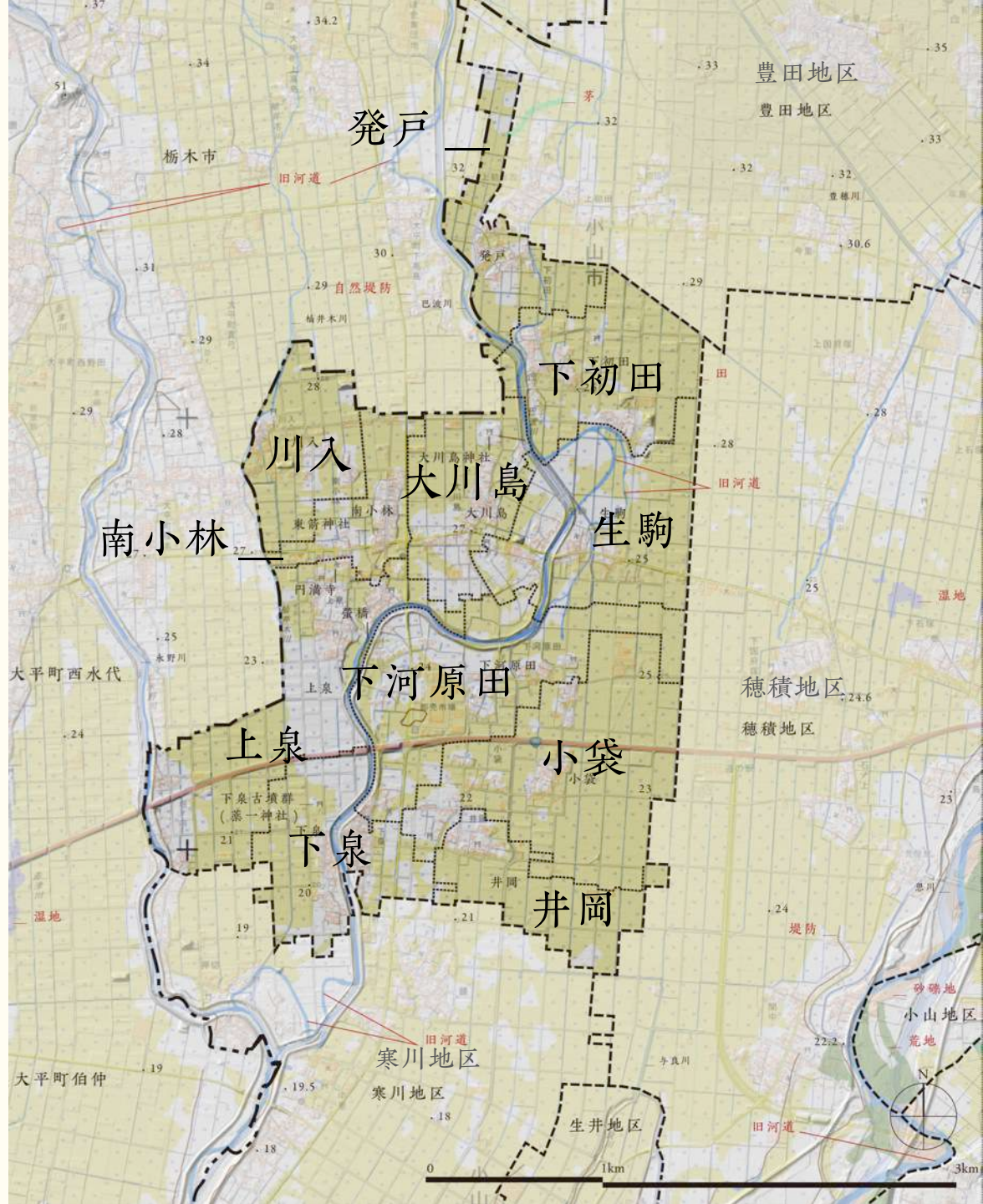
出典: 国土地理院 | 地理院地図 <http://maps.gsi.go.jp/> (廣瀬改変 2023)

中地区は、
明治22年(1889)に
南小林・上泉・
下泉・下河原田・
大川島・生駒・
下初田・井岡・
小袋の9村が
合併した中村を
もととします。

出典: 小山市史編さん委員会編『小山市史
通史編 III 近現代』小山市、1987年、
332頁

国土地理院 | 地理院地図

<http://maps.gsi.go.jp/> (廣瀬改変 2024)





出典: 国土地理院 | 地理院地図 | 標準地図+陰影起伏図+明治期の低湿地 3D <http://maps.gsi.go.jp/> (廣瀬改変 2024)

現代の地図に明治期の低湿地の分布を重ねます。
薄黄色は水田を表します。



出典: 国土地理院 | 地理院地図 | 空中写真+陰影起伏図 3D <http://maps.gsi.go.jp/> (廣瀬改変 2024)

思川低地では、集落がつくられた微高地の他は
湿地でした。それが湿田とされ、乾田とされて今に

目次:

1 地域の自然について

2 地域の自然への人の働きかけについて

3 地域と人々の心身の結びつき

4 景観から読みとれるその他のこと

地域の自然への人の働きかけについて

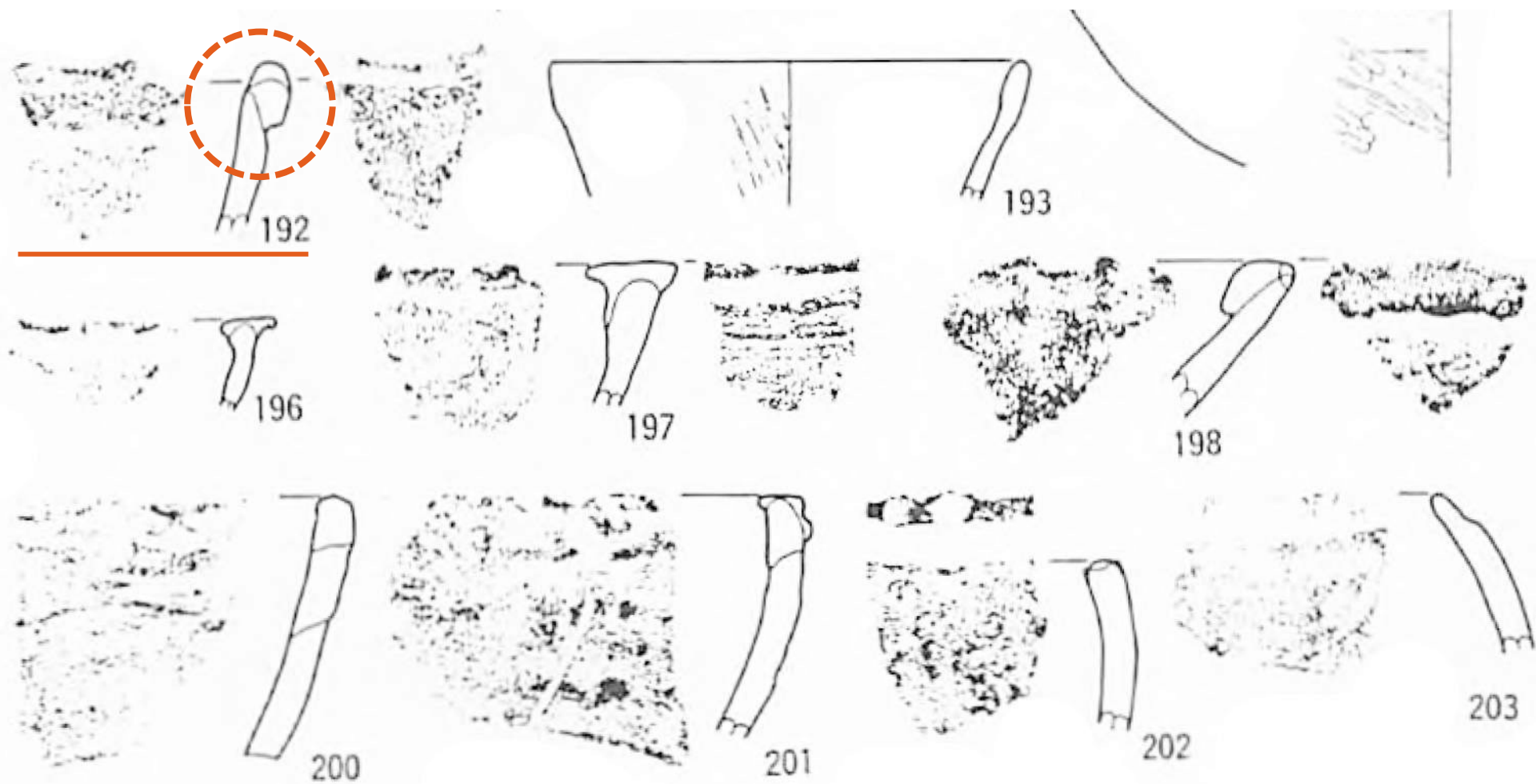
「(縄文時代の) 後期後半に位置づけられている
帯縄文系の加曾利B式・安行式土器は
井岡・星宮・宮内・千駄塚浅間・乙女北浦・
宮・寺野遺跡などから発見されている」。

出典: 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編Ⅰ 自然 原始・古代 中世』小山市、1984年、201頁

地域の自然への人の働きかけについて

「晩期の土器は、関東的要素の安行系と
東北的要素の大洞系の他に、
地元で作られた在地的なものが入り乱れ、
複雑多様な土器様相を呈する。

しかし、晩期の土器が発見される遺跡は、
井岡・乙女北浦・寺野遺跡にすぎない」。



出典: 小山市教育委員会「井岡遺跡確認調査」報告書、1980年、28頁

井岡遺跡出土品192 (鉢形土器) は、「口縁部に、西日本後・晩期土器に特徴的な突起を有する」(図中赤線)
 弥生文化の波及前に、西日本的な文化の影響が。

地域の自然への人の働きかけについて

「この低地には
古墳時代前期の山王寺大枡塚古墳、
中期から後期前半にかけての寒川古墳群、
古代における下野国府などが存在する」

出典: 秋元陽光 「“栃木沖積低地” 周辺の古墳—伯仲1号墳の位置付けをめぐって—」 『研究紀要 第31号』
とちぎ未来づくり財団 埋蔵文化財センター、2023年、19頁

地域の自然への人の働きかけについて

「後期の栃木低地周辺の古墳を見ると、
首長墓の築造はほぼ見られなくなる。
それと置き換わるように、
周縁台地上において
多数の古墳が築造される」。

出典: 秋元陽光 「“栃木沖積低地” 周辺の古墳―伯仲1号墳の位置付けをめぐって―」 『研究紀要 第31号』
とちぎ未来づくり財団 埋蔵文化財センター、2023年、22頁



下泉古墳群の一つ、薬一神社古墳(やくいちじんじゃこふん)と薬一神社。下泉。2024/06/08

「この中で注意されるのが、低地西側の
永野川流域において前方後円墳を中心とした
群集墳の展開(中略)。下泉古墳群は低地面に立地し、
確認されている古墳は8基である」。

地域の自然への人の働きかけについて

「関東地方の条里制は、主として北関東に
大規模なものが施されたことが判明した」

「関東第二の規模をもつ例が下野国にみられる。
下野国府があった現栃木市田村町から南にのび、
現小山市の思川西部のほぼ全域にわたって
条里制が施されている」。

地域の自然への人の働きかけについて

「巴波川流域は、思川西岸から、西の永野川東岸に広がる広大な沖積平野のほぼ中央に位置している。北端に近い下初田付近で標高30、中間の上泉付近が25、下流の中里で20 mを示し、傾斜角度がゆるやかであるため、各所で氾濫をくり返し、



下河原田・小袋・井岡周辺。空中写真。1947/11/01。出典: 国土地理院 | 地図・空中写真閲覧サービス <https://mapapps.gsi.go.jp>

大小の蛇行の跡が見られる」。

「巴波川が大きく迂回する外側(東岸)にあたる生駒・
下河原田・小袋・井岡付近は比較的明確な
方格地割が (中略) ことに小袋・井岡付近で (後略)」



地形に沿った曲線道路と南北方向の方格地割。川入。2024/06/26



地形対応型で個々の建物の方位がまちまちな大川島集落。同上

南小林・大河原田周辺。空中写真。2021/05/06

巴波川西岸に目を移すと「大川島では地割の方位がまちまちであるのに対し、南小林では方格地割が残っており、(中略) 現在も付近の宅地が方形の地割を残すなど条理地域と思われる」。



○「小林村の集落」
近世中期以降「梅の宮宿」に

栃木市榎本町-南小林的範囲を撮影した空中写真。1947/11/01。出典: 国土地理院 | 地図・空中写真閲覧サービス <https://mapps.gsi.go.jp>

文禄検地当時、小林村の集落は今より北西にあり、
本多忠純が検地を行った慶長13年 (1608) に現在地に。
「忠純は同10年 (1605) の入封以降、城下町の整備を
行うさい、周辺の集落をもあわせて整理した (後略)」

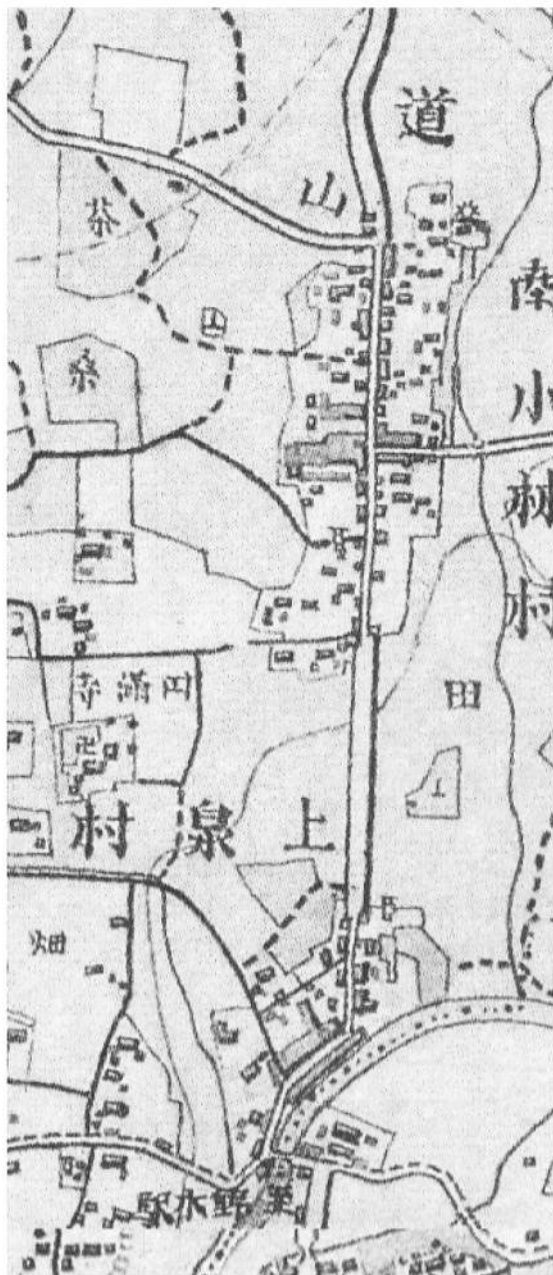


東箭神社の前から見た梅の宮宿。南小林。2024/06/22

梅の宮宿は、「1744 (延享元) 年 (中略) 公式に『宿』
としての機能を果たすようになった」「巴波川の
水運、日光山裏道における宿としての活動や

地域の
豊かな水田の
生産力により、
時に困窮しつつも
(中略) 豊かな
まちであったと
考えられる
それを物語るのが

出典: 旧・梅の宮宿、本沢河岸周辺の歴史的遺産を活用した地域活性化事業実行委員会編・発行「旧・梅の宮宿、本沢河岸周辺の歴史的資産に係る報告書」2017年、7、9頁



明治前期の迅速測量図 (国土地理院所蔵) 現在の都市計画図
図7. 調査対象地域の変遷

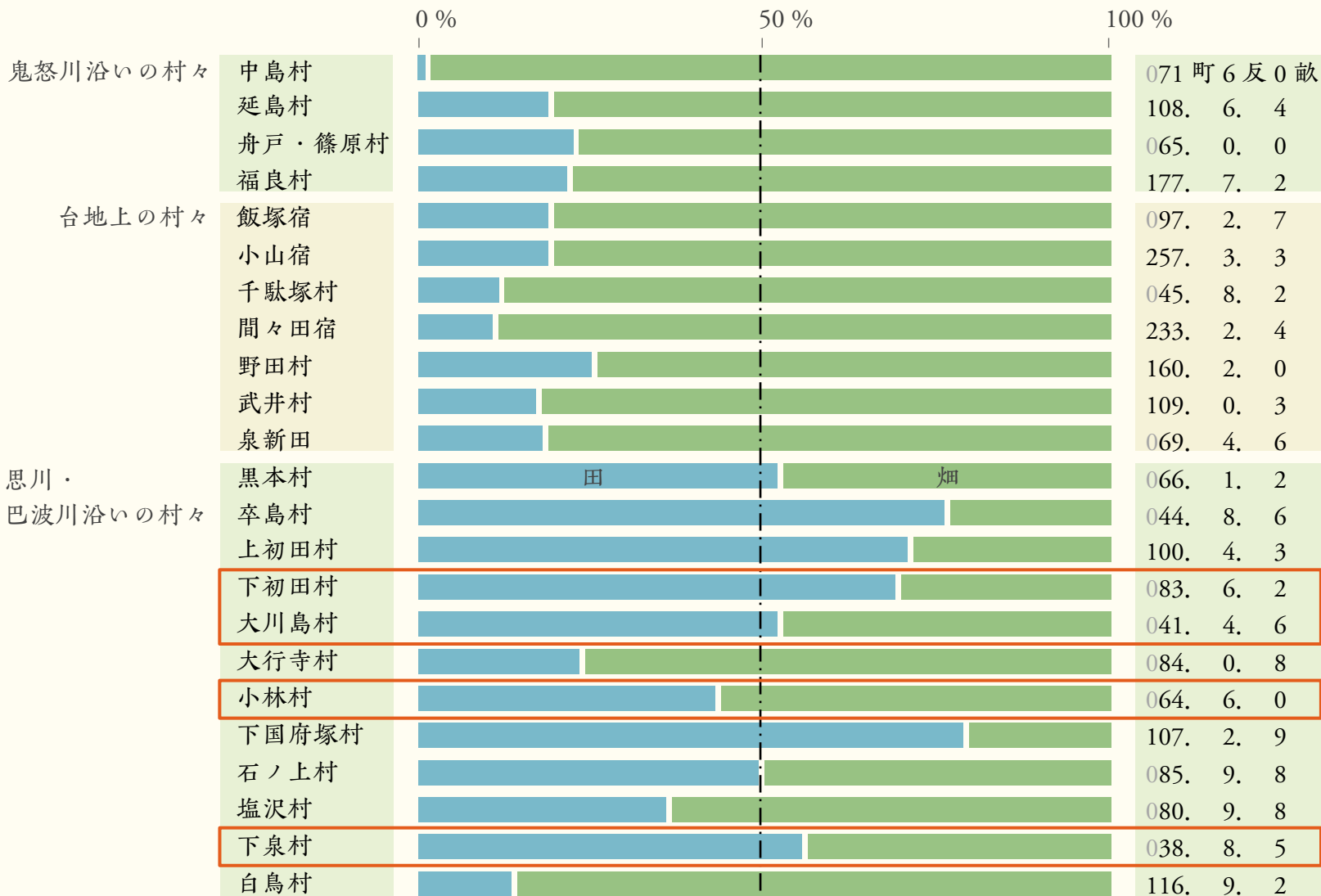


東箭神社彫刻。南小林。2024/06/26



熊野神社彫刻。上泉。2024/06/24

南小林の東箭神社、上泉の熊野神社である」。
東箭神社の「本殿の価値を高めているのは、
後藤正秀の手による豊富な装飾彫刻である」。
「正秀と同じ磯辺一族のもう1つの作品が残るのが
上泉の熊野神社」「分家3代目である磯辺敬信の」



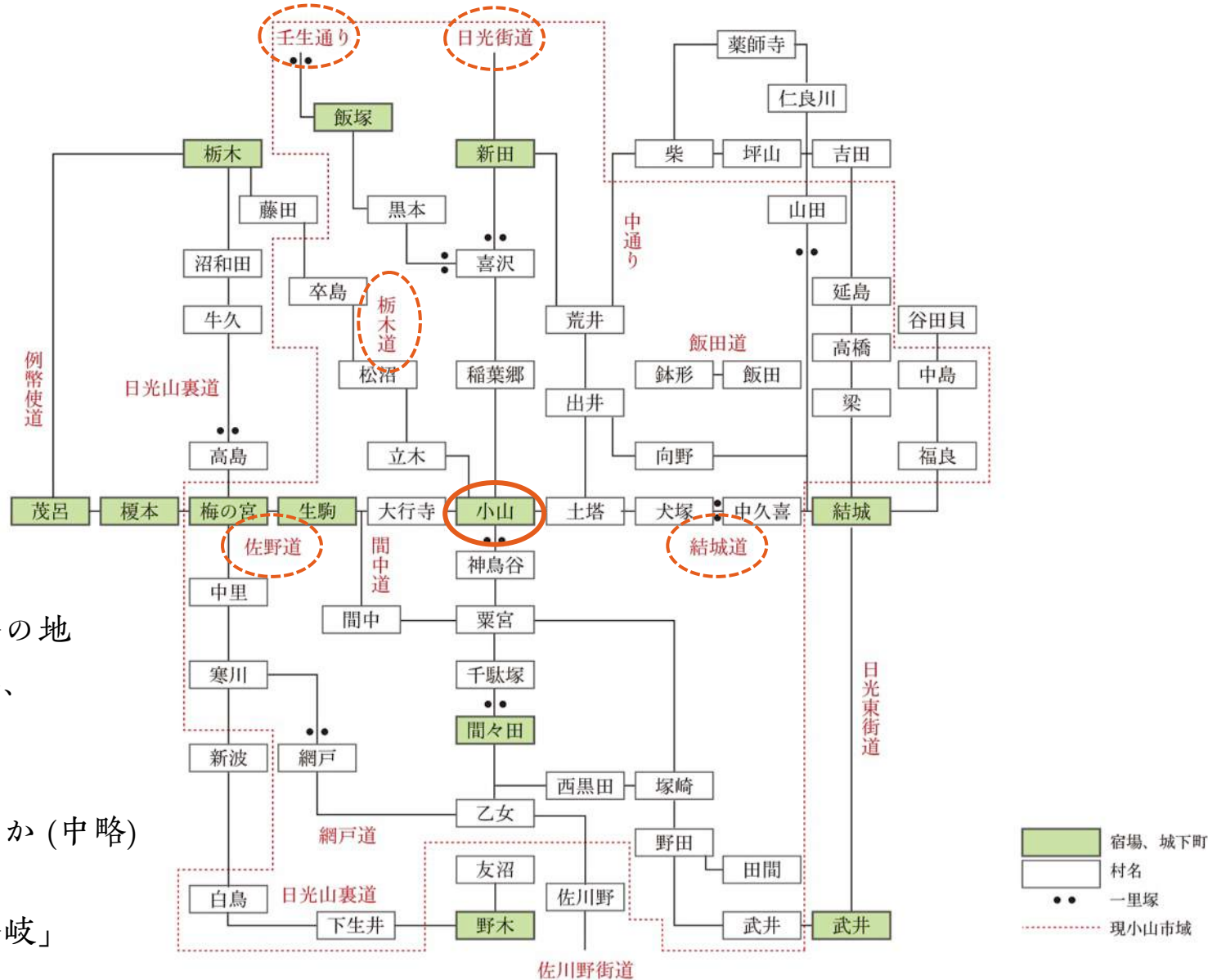
明治期の中村
現在の中地区

”

”

江戸期市域農村の田畑構成 (注 卒島村は関宿藩領のみ) 出典: 小山市史編さん委員会編『小山市史通史編 II 近世』小山市、1986年、総757頁 廣瀬改変 2022

微高地に畑、低湿地に田が作られ、割合は村毎に...



「小山は
五街道追分の地
ともいわれ、
日光街道・
壬生通り・
結城道のほか(中略)
栃木道と
佐野道が分岐」

日光街道 (日光道中) と市域の脇道 出典: 小山市史編さん委員会編『小山市史通史編 II 近世』小山市、1986年、260-261頁 廣瀬改変 2022

五街道追分の地を中心に、中地区では水運とも...



生駒橋を通る佐野道。生駒。2024/06/25



かつての本沢橋(現螢橋)から上流側を見る。上泉。2024/06/24

梅の宮宿・生駒宿周辺の佐野道。空中写真。1947/11/01

「近世初頭より年貢米や領主荷物の輸送路として
船数もしだいに増え」た巴波川では、「17世紀
なかばを過ぎると全国的な商業の発達にともない、
栃木町も在郷町として発展し、通船量も増加」。



晃石山 太平山

巴波川・發込川合流点より発戸(ほっど)を望む。下初田。2024/06/26

山々に近い巴波川沿いの風景は、小山というより...



生駒神社。下初田。2024/06/26

「もともと鳥居は木製が多く」市内最古の石鳥居は
承応2年 (1653)、須賀神社に。3番目が生駒神社の
元禄11年(1698)の鳥居。「あとは18世紀の建造」。

出典: 小山市史編さん委員会編『小山市史通史編 II 近世』小山市、1986年、230-231頁。市内2番目は「小山町愛宕神社の寛文7年(1667)の鳥居」



大川島神社鳥居。小山市指定文化財(有形文化財—建造物)。大川島。2024/06/26

大川島神社の石鳥居は、元禄4年(1691)に建立。
「建立当初の位置を保っていると考えられ、目立った
損傷もなく、近世前期の貴重な鳥居である」。

目次:

- 1 地域の自然について
- 2 地域の自然への人の働きかけについて
- 3 地域と人々の心身の結びつき
- 4 景観から読みとれるその他のこと

学校名	開校年月日	学校位置	開校時生徒数
国府塚学校	明治6年09月02日	下国府塚村 興永寺	60人 ※学区に上河原田村・下河原田村・小袋村・井岡村を含む
協同学舎	明治6年09月16日	上泉村 円満寺	90人
国府塚学校 下河原田分校	明治7年08月01日	下河原田村 保寿寺	42人

小学校設立一覧 (寒川地区)。 出典: 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編 III 近現代』小山市、1987年、73-86頁

明治6年 (1873) に全国で小学校の設立が本格化。

「栃木県では、当面は在来の寺院等を借用する方針を採り (中略) 小山市域に設立された小学校のほとんどは寺院を利用」。新築例は皆無でした。
中地区では、上泉、下河原田および下国府塚※に。



国府塚学校が置かれた興永寺。下国府塚。穂積地区。2024/07/23



協同学舎に用いられた円満寺。上泉。2024/06/24



国府塚学校下河原田分校が置かれた保寿寺。2024/06/25



今日の小山市立中小学校。上泉。2024/06/24

これら三寺を用いた学校が、現在の中小学校に。
保寿寺では、江戸時代に寺子屋の運営も。



中地区のあゆみ

平成28年度
文化庁 文化遺産を活かした地域活性化事業

巴波川の河岸
本沢

日光山裏道の
宿場町
梅の

小山に残る
近世のたたずまい

旧・梅の宮宿、本沢河岸周辺の
歴史的資産に係る調査報告書

宿
しゆく

栃木県小山市

出典: 中地区わがまちげんき発掘事業委員会編・発行『中地区ってこんなところ!』(2014年) ほか

多様な地誌。『中地区ってこんなところ!』第1章
「もの知り名人のお話を聞く会」は、独自のかと。



うずま館に飾られたホタルの縫い物。下河原田。2024/05/27 ※中公民館室内の写真がなく、うずま館の写真を代用した

「小袋婦人学級」の項より、引用します。

「小袋婦人学級を作り勉強しようと、自治会の
婦人達に相談しました。皆の心が豊かになり
住みよい地域になる事を願って、66軒しかない
地域なのに56人の会員で始まりました」。



「祭典面田奉納・生駒青年会解散記念碑(昭和18年4月)」。八幡宮。生駒。2024/06/25。全体(左)と部分拡大(右)

生駒の八幡宮に「祭典面田」奉納の碑が。埼玉県の嵐山町誌に「八幡面は八幡様の費用にあてた田」とあることから同様の目的の田かと。ただし、奉納者生駒青年会の「解散記念」と。1943年のことです。

目次:

- 1 地域の自然について
- 2 地域の自然への人の働きかけについて
- 3 地域と人々の心身の結びつき
- 4 景観から読みとれるその他のこと



巴波川。下泉。2024/06/24



同左。下河原田。2024/06/25

大きく蛇行する巴波川が、中央を貫く中地区。
川の左右には、氾濫からかたちづくりられた微高地に
構えられた集落が。微高地の間や川から離れた先の
低地には水田がある。約8 km西側には、山々が。

熊野神社

中小学校

← 本沢河岸

日光山裏道

梅の宮宿 →

栃木県道153号南小林栃木線より平行する日光山裏道と熊野神社、中小学校を見る。上泉。2024/06/26

大きな弧を描く川の河岸から直線状に街道が伸び、
家々が沿い、一部が宿に。地区景観の特色の一端。



イヌツゲの生垣。小袋。2024/06/25



シラカシの高垣。発戸。2024/06/26

建物の軒先を伸ばした下屋や独立した納屋ほか、
半屋内での作業に向く建物は、各地方、地域に…。
左は、納屋と生垣を合わせ屋内外を結ぶ作業空間に
右は、牛舎にシラカシの高垣を沿わせた例で、
屋根の軒先を強風から守り、微風は屋内へ導き、



螢橋、青木家住宅。下河原田-上泉。2024/06/24



螢籠。中公民館。下河原田。2024/04/18

「古河藩では例年三月から四月になると、これら
巴波川流域の村々に螢御用を命じていた」
「村々では、この螢の採集や輸送のため人足を動員し
これに対処しなければならなかった」
生きた螢を観賞用、死んだ螢を薬用としたそうです



八坂神社脇の水路のカワニナ (ゲンジボタル幼虫が食餌に)。上泉。同左 螢の飾り物。うずま館 (中公民館)。下河原田。2024/07/20

「平成13年より始まった『ほたる飛び交う中地区をめざす運動』もはや2年が過ぎ (後略)」。

「総合学習の時間にほたる橋の由来を調べた児童たちが (中略) むかしのようにほたるが飛び交う中地区にしたいと学校祭で発表しました。

『たんぼのある学校』でこれを実施することに」



東アジア・オーストラリア地域フライウェイの略図

WWFジャパン「日本のシギ・チドリ類重要渡来地」(68地点)

シギ・チドリ類など渡り性の水鳥が毎年移動する
経路には、彼らが休息し餌を採る湿地が点々と...



ふゆみずたんぼ実施田の例。上生井 (生井地区)。2021/06/23

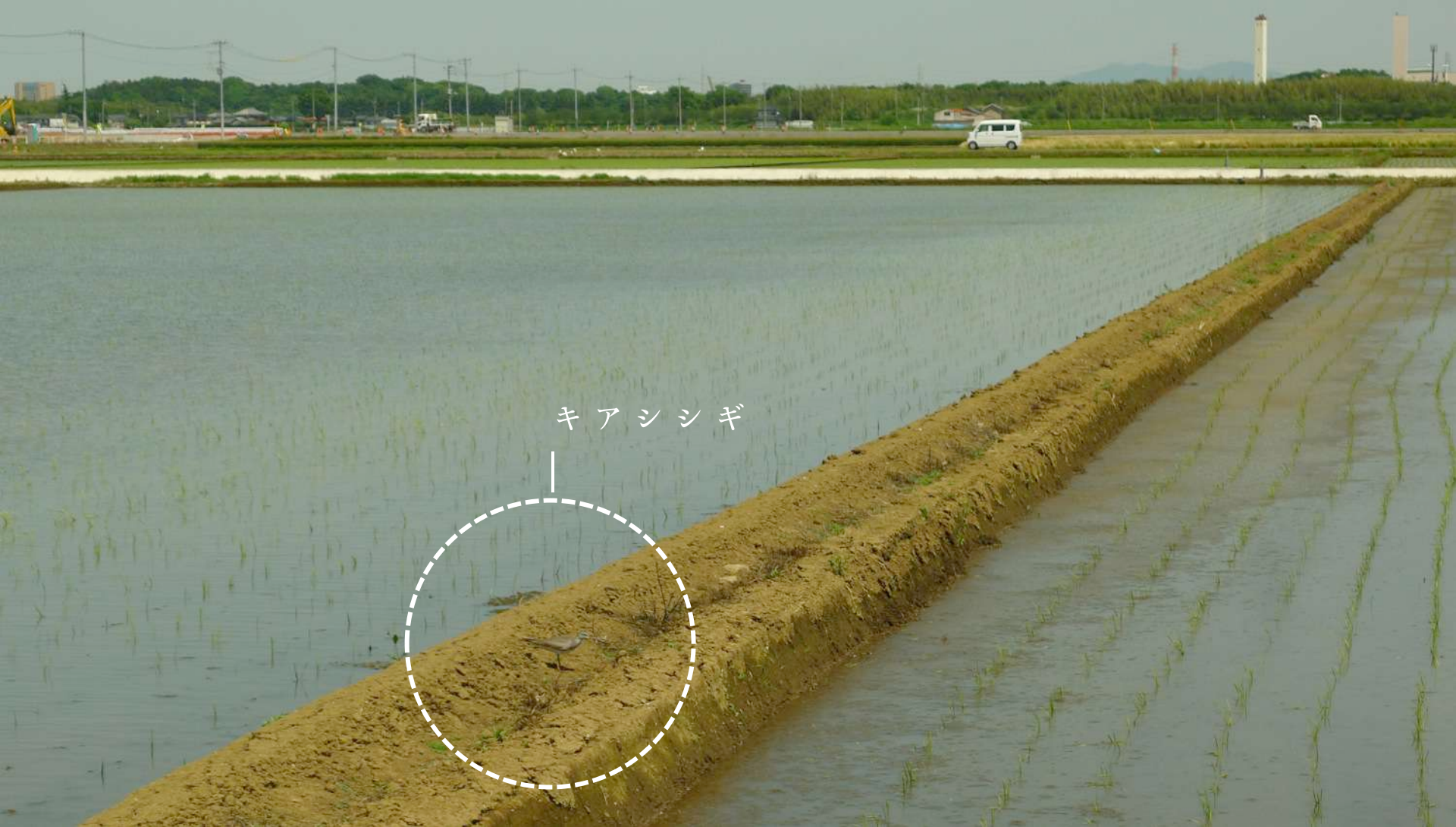
小山市では、湿地を通年確保して水鳥の渡りを支えるため、冬も田に水を張るふゆみずたんぼを9ヶ所、面積約7.9 haで協議会会員9名が、



なつみずたんぼ実施地の例。穂積地区。2022/08/22 鈴木由清 (山鳥舎) 撮影

麦の収穫後に水を張るなどするなつみずたんぼを
計204筆、面積約50.9 haで49名の生産者が
それぞれ実施しています。

出典: 小山市ウェブサイト | なつみずたんぼについて <https://x.gd/UGZZ0> (2024-08-21 参照)



キアシシギ

中地区調査地点。2024/05/10

2015年以降、鹿沼自然観察会の鈴木由清氏が行う
調査では、中地区でこれまで春期に見られなかった



キアシシギ。穂積地区。2024/05/10 鈴木由清 (山鳥舎) 撮影

キアシシギを確認 (上の写真は穂積地区で撮影)



発戸・下初田・大川島・生駒・下河原田。1949/08/25

同左。2021/05/06。出典: 国土地理院 | 地図・空中写真閲覧サービス

「低地の原形は圃場整備のためほとんど残っていないが、(中略)水田よりやや高位の微高地が」。
 その中で、農地の扱いの工夫などにより、水鳥が。



水田。松沼（豊田地区）。2024/05/10



ムナグロ。間々田地区。2024/05/07。鈴木由清（山鳥舎）撮影

鳥たちは、たとえばムナグロならば、
耕起中の田と水を張りイネを植えた田を
行き来するなど、農作業の過程でできる環境を
選んで使っているそうです※。



小山市には写真のノスリを含む猛禽類も複数種が生息・生育しています。2021/03/16 鈴木由清 (山鳥舎) 撮影 ※矢板市上伊佐野での撮影例を紹介

人間が必要とする自然の恵みは、生態系の中で
生物がそれぞれの役割を果たすことで得られます。
小山市の農業は、食料生産と共にそれも支えて
きています。その価値と可能性の確認から、次へ。